



わが社のヒーロー、ヒロイン

～ ㈱アドヴィックス ～



ETソフトウェアデザインロボットコンテストの風景

12月1日、大観衆が見守る中、チーム HELIOS が自分たちの力を試していた。知らない人が見れば、大人が揃っておもちゃのロボットを走らせているように見えるかもしれない。でも、そこは、ソフトウェアの設計技術を競う彼らの挑戦の場である。

社団法人組込みシステム技術協会が主催する ET ソフトウェアデザインロボットコンテスト※1（愛称 ET ロボコン）。ET ロボコンは、組込みソフトウェア※2の若手技術者の育成を目的として、2002年から毎年開催され、年々規模が大きくなるとともに、注目度が高まっている。2010年は、企業、大学、専門学校などから約340チームが参加した。

当社の ET ロボコンへの参戦は、2006年から始まった。参加しているのは、制御ブレーキのアルゴリズム、ソフトウェアを開発する部署の若手社員有志だ。会社としては、この取組みを、ソフトウェアの企画から完成まで一貫して携わることができる体験教育として支援している。

2010年のチーム HELIOS は、2008年総合優勝、2009年総合準優勝という先輩たちが築いた実績を背負っての挑戦となった。メンバーは誰一人として口に出さなかったが、きっと、大きなプレッシャーを感じていただろう。業務外の限られた

時間のなか、「高度な技術への挑戦」を志し、難易度の高いコースの攻略にチーム一丸となって取り組んだ。一人の提案が次のアイデアを生み出し、白熱した議論を通して良いものを作りあげていく、その繰り返しである。

その結果、モデル部門で史上初の2年連続エクセレントモデル（1位）を手にした。設計思想および思想に基づくモデリングとソフトウェア品質の技術力が評価された。

チームメンバーは、「今回の挑戦で、プロジェクト管理、ソフトウェア開発、品質管理など実際の業務にもつながる過程を経験でき、次世代のソフトウェア開発に必要なオブジェクト指向やUMLといった技術を学ぶことができた。これをブレーキ開発に役立てたい」と語る。

「興味を持ち、一生懸命に、楽しく取り組む」姿勢は、技術者にとって原点といえるもの。それを自ら得た彼らの姿は、とても頼もしい。先輩達が培った伝統を受け継ぎ、若手社員の挑戦は今年も続く。

※1：ETロボコンの競技は、レゴブロックの車体で、決められたコースを自律走行するもので、同一のハードウェア(車体)のもとに、各チームが分析・設計したソフトウェアの技術を競う。審査は、「ロボット走行システムのソフトウェア設計モデル評価」と「ロボット走行性能(タイムレース)」の2つの側面で行われ、最低限の機能しか持たない車体をソフトウェアの力でいかに速く、且つ安定した走りを実現できるかがポイントとなる。

※2：携帯電話や産業機器、車、家電製品などに内蔵されるマイクロコンピュータを制御するためのソフトウェア



モデル部門で史上初の2年連続エクセレントモデル（1位）